かさおか

発行所
天理教笠岡大教会
かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66−1311
FAX 66−1314

一年間を通しておぢばを賑やかにしよう

1．　毎月一千人のおぢばがえり

1．　五十万軒にをいがけとおさづけの取次

立教169年
4月号

教祖120年祭 学生おぢばがえり大会

3月28日、「世界の友にをやの思いを」をテーマに「教祖120年祭 学生おぢばがえり大会」がおぢばで開催され、過去最高の九千人を超える学生が参加した。

式典で真柱様は、親神様の人間創造の思召しや年祭の意義について触れられた後、教えに基づく心のおさめ方を学び、教祖のひながたに照らして、親神様の思召にふさわしい陽気ぐらしを実践できる人になってもらいたい、と述べられた。

その後の「直属アワー」では、グループごとに本部食堂で昼食、そしてウォークラリーをしながら詰所へという設定で、参加者は「学生生徒修養会」等で顔見知りの人も多く楽しい時間を過ごしていた。最後に詰所食堂で大教会長様よりご挨拶いただき「直属アワー」は終了した。参加した学生は38名(内別席者3名)、学担委員7名。

(学生担当委員長　吉岡　誠一郎)

少年会笠岡団 おつとめまなび総会

少年会笠岡団では4月2日(日)に本年度の「おつとめまなび総会」を開催しました。

当日は朝から雨模様でしたが、受付が始まる9時前から会長さんや、親子での参加者などが続々と集まってきました。そして、参拝場、廊下にといっぱいになった9時半に雅楽の澄んだ音色が鳴り始め、おもむろに祭儀式が始められました。

今年もおつとめ着に身を正した少年会員は、やや緊張した面持ちながら大人顔負けの堂々たる祭儀式をつとめ、祭文では、毎日元気に勉強やスポーツに頑張っているいる喜びを親神様と親に感謝をすることを、また、今年の「こどもおぢばがえり」には仲良く助け合って、たくさんの友達をさそって参加することを親神様、教祖さまに奏上しました。つづいて直轄教会による坐り勤め、よろづよ八首がつとめられ各ブロックによる、十二下りのてをどりも少年会員らしくはつらつとのびのびとつとめられました。

おつとめ後の式典では、育成会長様からおつとめの大切さや、「教祖百二十年祭の今年はお父さんやお母さんや友達と一緒におぢばがえりをして下さい」と分かりやすく、ときには微笑みながら、こども達にとって身近なお話しをして下さいました。

また、この春、中学校を卒業する少年会員に若木の門出として記念品が贈られました。その後、昼食のおいしいカレーライスをいただき、午後からのアトラクションは、予定していたドッジボール大会は雨のため各部屋やロビーなどでのもりだくさんのクイズやミニスポーツラリーに変更して行われ、子ども達は、各コーナーではとんちで解く問題に頭をひねったり、助け合いながらゲームを楽しんでいました。午後3時には閉会し、おやつのジュースとシュークリームを食べて解散しました。毎年思うことですが次代をになう子供たちが一生懸命におつとめをつとめる姿は頼もしく、また就学前の幼児が自分の顔より大きなチャンポンをつとめている様子などは誠に微笑ましいものです。

続いてこそ道　といわれるように今年も「おつとめまなび総会」の意義を感じさせて頂きました。

参加者は、少年会員、育成会員合わせて450名余りの大勢でした。各教会、各隊、また婦人会をはじめ、関係各会、各部の皆さま方のお力添え誠にありがとうございました。

ぢば・かんろだいを間近に拝して

亀田山分教会長　高橋徳行

教祖御誕生二百年の年、すなわち、真柱継承奉告祭が執り行われた年、私、任命のお運びを頂き、自教会の四代会長として歩み出しをさせて頂きました。爾来、七年余りの歳月、ひとつひとつ振り返ってみますと、未熟者は未熟者なりに、色々な出来事、様々な節をお見せ頂き、その度、自分にとって都合の良い、上辺ばかりの理の思案を積み重ねてきたような気が致します。

そんな中、教祖百二十年祭のお打ち出し。教会長として初めて迎える教祖年祭であります。諭達をはじめ、旬々に頂く真柱様のお言葉、又、大教会よりお示し下さいます活動目標を通し、世界たすけの用木として、教会の芯として、少しでもをやの思いに近付かせて頂ける道を歩ませてもらおう、との決意のもと、届かぬながらも、この三年千日通らせて頂いたように思います。

そして迎えた教祖百二十年祭。その感動も覚めやらぬ先般二月二十六日、本部月次祭としては珍しい程の雨降りの中、登殿参拝のお許しを頂き、神殿結界内にて、千六百人を超す教会長の方々と共に、かぐら・てをどりを拝させて頂く機会をお与え頂いたのです。飯降表統領の講話の後、真柱様のお手に合わせて一同礼拝。引き続き教祖殿へと移動する際、北礼拝場から、西・南へと、上段に添うて歩かせて頂きながら、初めて真近に、中央にそびえ立つ、かんろだいを拝させて頂きました。又、取り囲むように据え置かれているかぐら面、更には、見事に盛り付けられた神饌物の数々。静けさと、澄み切った空気の中、かんろだいの真上より降り注ぐ雨。そこは正に異次元の空間であります。このぢばは、親神様のお鎮り下さる所、よろづたすけの源であると承知していたつもりでしたが、改めて眼前に拝し、その神神しさに、これまで経験した事のない感激を受けました。そして、ぢばの出張り場所としての教会の使命と、かんろだいづとめの理を受けてつとめさせて頂く教会月次祭の意義を、改めて認識させて頂いたような次第であります。又、本年は、次なる塚、教祖百三十年祭に向けての第一歩を踏み出す旬でもあり、私のような青二才に対し、これからの十年は、もっともっと気合いを入れて成人の歩みをしていってくれ、との切なるをやのご期待を感じさせて頂き、思いを新たにさせて頂く契機となった登殿参拝のひと時であったようにも思います。

教祖殿にて真柱様より、お労いのお言葉を頂き、おさがりを頂戴して表に出てみると、参拝前にも増して、傘も役に立たぬ程の強い雨と風。普段でしたら、つい〳〵不足心のひとつも浮かんでくるところですが、おつとめ着の袴の裾をたくし上げながら、送迎バスまでの道中、心の中は実に晴れやかに、心地よい足取りで神殿をあとにした次第であります。

誠に有難うございました。

緊張と喜び、そしてこれから

明石市分教会長　杉原博之

教会長の立場で教祖の御年祭を迎えるのは初めてなのです。全教会長が教祖百二十年祭の一年、月々に分かれて登殿参拝をいたします。

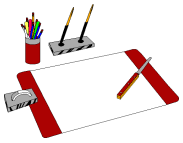
私は三月二十六日と決まり緊張感と共にとても嬉しくて子どものように指折り数えて楽しみにしていました。去年12月、自教会の月次祭で「今年は御年祭につき全国の教会長が各々の月に分かれて登殿参拝があります」と早速伝え1、2、3月と月次祭の都度皆さんに伝えさせて頂きました。「会長さんはよっぽど嬉しいんやなあ」と言われましたよ。やっと当日を迎えました。全体で1600名の教会長、笠岡大教会からは、20名。詰所でおつとめ着を付け遥拝所で集合記念撮影、マイクロバスで出発しました。良いお天気で気持ちがいい。東礼拝場に上がり、結界内に座りました。あんまりキョロキョロするのも行儀が悪いのでじっと我慢です。いよいよ祭典が始まり座りづとめ、12下りの手踊りを参拝、御講話を聞かせて頂きました。結界内の参拝はやっぱり今までとは違うなあ。今までは参拝やったけど、今回は一緒に勤めさせて頂いたという思いがあります。次に教祖殿御用場にて、真柱様のお手に合わせて教祖礼拝。続いて御年祭の意義についてのお言葉をいただきました。「頑張らなくては」という思い……。御神酒、味醂、おもちのお下がりを有り難く頂き、緊張も解け〝ぼぅ〟として詰所へ戻りました。帰りには教祖120年祭のビデオとDVDを買い見るのを楽しみにして明石へ帰りました。4月の月次祭では皆様に登殿参拝の喜びを改めて語り教祖お下がりの御神酒、味醂を飲んで頂き喜びのお裾分けをさせて頂きました。御年祭は成人の道のゴールではなく陽気ぐらしに向かう一里塚とお聞かせ下さいます。精一杯通らせて頂きます。

・原・稿・募・集・

内　容　①小随筆、②教会・布教所の独自の活動の紹介、
③俳句・和歌・川柳、④教会行事開催後の報告記事 等々

字　数　１０００字前後（８００字～１２００字）
題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。
俳句等は１句からでも結構です。

寄稿先　下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。



郵　便：〒714-0066 岡山県笠岡市用之江３７７
ＦＡＸ：０８６５－６６－１３１４
メール：**tenkasa@kcv.ne.jp**
尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。

談話室

修養科教養掛の御命を頂いて

出雲川津分教会長　仙田　勉

此の度、修養科第七七九期教養掛助員の御命を頂き誠に届かぬ者が、N主任先生のもと12名の修養科生と共につとめさせて頂いているところです。さて、おぢばで一ヶ月の生活をするため、何か心定めを思いつつ、留守をする準備などで、日が過ぎてしまい「これだ。」という定めなしに三月二五日おぢばに帰らせて頂きました。思い出すのは、事前研修会での大教会長様の「我が教会の理の子と思うて、しっかりと導いて頂きたい。」とのお言葉です。どんな方々が、引き寄せられているかわからないままでしたが、「いんねん寄せて守護する」とお聞かせ頂きますから、先ず我が心、我が姿、我が事として通らせて頂こうと思いました。二十五日夜一ヶ月つとめ終えられた門司港分教会長様の引継ぎを受け、中途半端な気持では、責任は果たせないと感じ、一日一日を真剣に気を緩める事なく通らせて頂こうと思いました。日は一日一日と過ぎ四月五日の朝づとめ終了後、連絡が入りました。それは、大阪在住の親戚からの「母が出直した。教会で葬儀を挙げてもらいたい。」という依頼でした。気にかけながら来ていたのですが、まさか本当になるとはと気が動転しました。というのも十年前、教祖百十年祭の年、同じく教養掛の御命があり、久松分教会長様のもとつとめていた中、その夫の方が出直され、急遽、自教会に帰らねばならなかった経緯がありました。巡り合わせとはいえ不思議な事と思う一方、どういう神様の思召だろうかと自分なりに、思案もし、又主任先生にも伺がったりしました。やはり、少しでも早く修養科生のご守護を頂けるような通り方、又以上にようぼくになる人の御守護を急き込まれているのだなと思いました。さて、当面の葬儀の段取りに向かい、お許しを頂き早速自教会にもどりました。出がけに、参考にと渡して頂いた葬儀の式次第又準備品などの丁寧なコピーを頂いたり、又上級教会長様の親身なお手伝を頂き、何とか、届かぬながらもつとめ終える事が出来ました。お言葉に先まわりの御守護をするのやという意味の事がありますが、多々そういう場面があり、実にもったいない、有難い極みでした。此出来事を振り返り思うには、今は大切な時旬であるな、たすけが急務、にほいがけ、声がけが急き込まれている時だ、そして一人でも多く、ここ親里ぢばにつれ帰らせて頂かねばならない時と思わせていた次第です。今だ、教養掛の最中ですが、しっかりと伏せ込ませて頂くと共に主任先生の思いに添わせてもらい又十二名の尊き修養科生の一手一つの成人の姿を願ってやまない所でございます。誠に有難とうございます。

今月から絵手紙で表紙を飾っていただくことになりました。

（プロフィール）

高屋分教会直属　祖父よりの信仰を受けついでいる。助産婦として三十年、病院勤務。二年前より助産院開業　育児支援活動中。

偶然通りかかった廊下で出会った絵手紙に感銘。そのパワーの大きさにひかれ習い始めて二年。じっとみつめて描いていると五十年生きてきて見えてなかった多くのことに気づかされます。小さな草花にも感動させられます。その感動が皆様に伝えられればと思っています。

小川道子

こころの詩

▼養徳社発行『陽気』誌四月号、「道柳」より転載
▽今回の課題は「拍」、選六十七句中、笠岡に繋がる教友の方二名、二句が見事選ばれ掲載されていましたので転載させて頂きます。おめでとうございます。

佳　詠　芦品分教会　ようぼく　金　谷　眞佐代

拍車かけますます勇むにおいがけ

秀　詠　東悠分教会長夫人　田　林　美智子

回廊を手拍子にのり孫数歩

▼人の浪

詩　かくしん
（三月二十六日）

寄せ来る浪よ　高からかに
此こ大和の国の　天理の町に
待ちてむかえた　教祖年祭
寒さいとわづ　胸の高なり
どとうの如き　人の浪

年祭と云う　大型船が
通うりて起こした船足の浪
寄せては返し　又寄せる
世界の国より　又寄せる
今日のにぎわい　人の浪

扉開いて　百二十年
二時の歌音　さえわたる
高き浪音　ひくき浪音
心にひびき　手を合わす
教祖殿　教祖殿へと人の浪

◈縦の伝道講習会（ＫＯＧ１０万人増員の本部巡回を兼ねて）

【と　　き】　平成１８年５月２１日（日）祭典講話として
【講　　師】　岩　谷　富太郎　先生（少年会本部委員）
【内　　容】　こどもおぢばがえり、縦の伝道についての講話
【対　　象】　教会長夫妻、布教所長、隊育成委員長、ようぼく、信者

◈第２２回 婦人会笠岡支部総会

【日　　時】　平成１８年５月２３日(火) 午前９時３０分
【場　　所】　笠岡大教会
【内　　容】　おつとめまなび･式典･感話３名･ミニ喫茶･バザー（昨年の残り物）
＊参加者には昼食弁当を準備しています。
＊尚、準備の都合上4/21. 5/5. 5/19に参加人数をとりまとめますので事前に心づもりをお願いいたします。
＊どうか一人でも多くの会員をおさそい頂き御参加下さいますようお願い申し上げます。

◈各行事に参加ご希望の方は、各ブロックの担当者にお申し込みください

第７８２期修養科募集要項

＊修養科期間

立教１６９年６月１日～８月２７日

＊教　養　掛

３ヶ月間　高　木　昭　祥　（大教会役員・湯田原分教会長）
１ヶ月目　三　阪　泰　人　（福 岩 分教会長）
２ヶ月目　田　中　一　矩　（上小畠分教会長）
３ヶ月目　三　代　　幸　（米 府 分教会長）

＊募集要項

・志願者は、６月末日現在で満１７歳以上で、下表の必要書類を携え、上級教会を経由して大教会に順序参拝すること。
・５月２５日までに笠岡詰所に入所し、教養掛の面接を受けること。
・３ヶ月の修養期間を修了後は、大教会での修養科修了講習会を受講し、８月２９日の昼食後に解散。

＊教　科　書（必須）

『おふでさき』、『みかぐらうた』、『天理教教典』、『稿本天理教教祖伝』、『よふぼく手帳』。

＊参　考　書（出来れば持参）

『おてふり概要』、『なりもの練習譜』（笛・打楽器または三曲）、『おやしき・史跡案内』。

＊携　行　品

おつとめの扇、筆記用具、認印、笛（男鳴物の講義で笛と小鼓の内、笛を選択する人のみ）。

＊服　　装

ハッピ及び帯・バンド、長ズボン（又は、それに類するもの）、靴。

書　　類	大教会	詰所	備　　考
「順序参拝票」	○	○	
「別　席　願」	○	○	・「初席願」の順序参拝がまだの者で、修養科入学後に初席を運ぶ者のみ。
「席　　札」		○	
「別席のしおり」	○	○	・願書に日付を入れない事。
大教会　御供	○		・おさづけの理拝戴願の順序参拝も合せて行なう。
本　部　御供		○	・「別席の誓いの言葉」は別席の誓いの日までに覚えること。
「おさづけの理拝戴願」	○	○	・「おさづけの理拝戴願」の順序参拝がまだの者のみ。
「おはなし」	○		・願書に日付を入れない事。
大教会　御供	○		
本　部　御供		○	
「修養科入学願」		○	・御供は任意であるが、慣例により、２００円以上。
「修養科入学事由書」		○	
修養科入学御供	○		
「住民票」または「戸籍抄本」		○	・「戸籍記載事項証明書」、「身分証明書」でもよい。

三月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に会長上原理一慎んで申し上げます

親神様の真実の親心溢れる御守護とお導きを頂いて日々は結構に恙なく生活させて頂いております　特に今は野山の草花も時折強く吹く風も雨も春爛漫の旬が近い事を告げ学舎を卒えた子供達は新たな始まりに胸躍らせる等希望に満ちた旬を迎えさせて頂いております事は誠に有難く勿体ない極みでございます

教祖百二十年祭を無事つとめ終え新たな塚へ向かって歩み出した私共一同は改めて信仰の元一日を思い起こしかしものかりものの喜びと感謝の気持ちを心に湛えて日々は朝夕に御礼申し上げつつ御恩報じを思い念じてたすけ一条の御用の上に勤め励ませて頂いております

その中にも今日の吉日は此の大教会にお許し下さいました三月の月次祭を執り行う日柄でございますので只今からおつとめ奉仕者一同喜び心も一入に明るく陽気に勇んで座りづとめてをどりをつとめさせて頂きます　御前には今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が相共に声高らかにお歌を唱和し真実をつくして尚も変わらぬ親心にお縋りする状を御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて景気が上向いてきたと浮かれている世上ですがその一方で心の荒廃はます〳〵進み特に若年層が顕著で若者の犯罪が増加すると共により凶悪化しております　これは当たり前に慣れ過ぎて人や物全ての事に喜びと感謝の心を失っている事が要因として挙げられます　私共よふぼく一同は親の救けは病救けと共に心の救済である事に思いを致しその為にはまず自らがかしものかりものの理を味わい日々を喜びと感謝の心一杯に通らせて頂きつつ節目を迎えた子供達はもちろんにをいがけおたすけ又おぢば帰りを通して一人でも多くの人にその喜びと感謝の心を伝えさせて頂き次の塚に向かっての成人の歩みの足固めとさせて頂く所存でございます

何卒親神様には何でもどうでもと親の思いに応え精一杯にたすけ一条に邁進する皆の真実の心をお受け取り下さいまして人々の心が澄みわたり喜びと感謝の心一杯に助け合う陽気ぐらしの世の状に一日も早くお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

【8】「この世で陽気ぐらし」が私たちの願い

この世は苦の娑婆、極楽はあの世にあると長く説かれてきました。生きることは苦であり、死後の世界に楽を求めて生きてきた人と時代もありました。

ところが、そうじゃない、この世で陽気ぐらしをし、この世に陽気ぐらし世界を築くんだ、と宣言されたのが天理教教祖中山みき様でした。古い着物を脱ぐように世を去り、再び新しい着物に着替えてこの世に出直してきて、また陽気ぐらしをする。その時も住みよいこの世であるよう願って、いつの世も努力したいものですね。

春季霊祭祭文

これの笠岡大教会の祖霊殿にお鎮まり下さいます
本席様の御霊 初代真柱様並びに奥様の御霊 二代真柱様の御霊 中山家御先祖の御霊 大教会創設の祖 上原佐吉大人八重刀自の御霊 初代会長上原さと刀自の御霊 二代会長上原伊助大人光刀自の御霊 三代会長上原繁雄大人くにゑ刀自の御霊 四代会長上原郁雄大人の御霊 大教会草創の頃より歴代会長と共にご苦労下さいました役員 部内教会長 教人 よふぼく 信者の御霊 諸々の御霊の前に 会長上原理一慎んで申し上げます
祖霊様方には親神様のお話を聞き分けられ又不思議な御守護に浴する等して早くからこの道に引き寄せられ御恩報じとの思いのままにどんな難渋の中も心明るく生の限りにたすけ一条の御用を勤め切られ笠岡の道の礎を築かれると共に道の拡めを果たして下さいました 今日のお道の結構な姿をお見せ頂いておりますのもひとえに親神様教祖の御守護お導きの賜である事は申すまでもありませんが又一つには祖霊様方の神一条の真実誠の伏せ込みの賜と朝夕に御礼申し上げておりますが本日は春の霊祭を執り行う定めの日柄でございますのでありし日の面影を偲び御遺徳を称えてご生前のご苦労に言改めて御礼申し上げたいと存じまして御前に海山川野の心づくしの物を供えて只今はおつとめ奉仕者一同寄り集いましたゆかりある人々の声高らかなるみかぐらうたの唱和と共に親神様の御前にて陽気にてをどりをつとめさせて頂きました 又先日の教祖百二十年祭の人作り御供えも皆が心一つに勤め切る事が出来ましたのも祖霊様方の伏せ込み理作りがあったればこそと合わせて御礼申し上げます
今お道は教祖年祭後次の塚に向かった新たな成人の歩みを踏み出したところでございます 笠岡では親の思いに応え「一年間を通しておぢばをにぎやかにしよう」を合言葉に「毎月一千人のおぢば帰り」「五十万軒にをいがけとおさづけの取次」の実動を誓い合い成人の歩みの足固めをさせて頂いている最中でございます
何卒祖霊様方にはこれからも御心放たずお見守り下さいまして皆がたすけ一条に心明るく楽しんで邁進する姿になりますようお導きお力添えの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

大教会だより

◎第776期修養科
自 立教168年12月1日
至 立教168年2月27日

＊教養掛
三ヶ月間 今川昌彦（大教会役員）
一ヶ月目 仙田喜久雄（天場山分教会前会長）
二ヶ月目 竹本和道（福芦分教会長）
三ヶ月目 渡邉隆夫（神昭分教会長）

＊修了者
稲讃 高橋竜二
坪生 掛谷富子
芦品 山下育代
稲倉 北川円
ノースアメリカ 井芹正昭

◎教会長資格検定講習会修了者
前期 立教168年4月14日終講
恵陽 藤本道喜
稲富士 須毛田康弘

◎第七八〇期修養科一期講師
自 立教169年4月1日
至 立教169年6月27日
八尋 矢田哲一
雲東 三代温生

◎直属ひのきしん特別隊
自 立教168年4月10日
至 立教168年4月20日
多古浦 余村修

訃報

時宗一善氏
吉舎分教会前会長
三月二十日出直されました。
享年 八十九才

名言&迷言

先日、NHKの番組で東大のN助教授が出演されていました。どんな方なのだろうと見ていると、その助教授、なんと、テレポーテーションの研究の世界の第一人者だという。スタートレックの世界じゃあるまいし！と思いつゝ聞いていると、量子レベルでは、すでにテレポーテーションは成功しているとの事。つまりこの研究は未来のコンピューターといわれる"量子コンピューター"の研究だそうで、現在のスーパーコンピューターが百年かかる計算を数分でこなすものだと言うのである。その助教授の言われるには、私たちの研究は、九十九・九％失敗の連続である。失敗を恐れていては前には進めない。失敗を楽しもう！と常に自分・そして研究室のメンバーに言っていると！なるほど、と関心しながら聞き入った次第です。私達も"教祖百二十年祭"を迎え、次のスタートラインに立ったこの旬に、失敗を恐れず、楽しみながら歩んで行きましょう。　（と）

今年も、弥生の桜を、あちこちと梯子し、堪能させていただきました。元気で、自由気儘に動き回れる様、ご守護頂き、感謝の念に耐えません。この感謝の気持ちを、報恩の行動に移すのが、ひのきしんと聞かせていただいております。今月末(四月二十九日)は、全教一斉ひのきしんデーで、五月はひのきしん強調月間です。今年は、教祖百二十年祭の年として、全教五十万人の参加を提唱いただいています。これを請け、広島教区で二万人、わが支部では、開闢以来の千三百人を目標にしています。従って、この目標達成の為、多人数受け入れでき、駐車場もある、会場への見直しを進めるとともに、支部内の教会、布教所への参加促進は勿論の事、支部内に教会のないよふぼくの方々への参加協力依頼のDMの準備、発送など、滞りなく済ませました。また、今年は、各教会の五月の祭典時に、教会周辺の清掃ひのきしんを実施するよう、申し合わせしています。今年のひのきしんは、さすがに、教祖百二十年祭の年に相応しいひのきしんだったと、教祖にお喜びいただけるよう、頑張りましょう。

やむほどつらいことハない
わしもこれからひのきしん
（さ）

修養科、二ヶ月目を迎えている。入学当初、三月と言ってもまだまだ寒さ厳しく、親里は雨、雪の日が続いた。予期せぬ節が連日の如く起きる。一歩間違えれば大難であるところを、親神様のお計らいで凡て無難にお見せ頂いている。改めて、をやが踏ん張り無事お連れ通り頂いている事を肌で感じ、感謝感謝の毎日を過ごさせて頂いている。

そんな或る日、雪のシンシンと舞い降りる神殿を回廊越しに見渡しながら教祖殿へ。其処には白綿の雪を戴いた梅の枝・紅梅の花が一分咲きで、誠に鮮やかな彩りを見せ目に飛び込んで来た。ふと心に浮かんだお言葉が

にんけんの心とゆうハあざのふて
みへたる事をばかりゆうなり

人は満開になった梅の花を見て綺麗だと云うて愛でるが、厳冬の最中、葉を落とし枯れ木の様になった木に目をやり、小さな息吹を戴いて、やがては満開になってお見せ頂いている守護に、どれだけの人が気付き、或いは、鮮やかな御守護を頂く事に目をとらわれてしまいがちで、日々に起こって来る一つ一つのおはたらきに、どれだけの人が感じ入って過ごしておるのか…。

今年は厳冬で、春の訪れも遅かった。待ちに待った春が春雷を経て、桜、雪柳と、正に百花繚乱、またとない時期を親里で過ごさせて頂いている。

……

今年のサクラは、長くまで楽しめるという。難儀した分だけ、伏せ込んだ分だけ喜びも、徳もお与え頂けると云う事か。その事に気付くか気付かないかは別にして…。

不思議なたすけがチラホラと期、満ちて芽を吹き出して来ている昨今である。　（ちょん）